



2023年度 第3四半期 決算説明会資料

JT Group CFO
古川 博政

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。
※用語の定義については、スライド18以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。

その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

1. 喫煙に関する健康上の懸念の増大
2. たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
3. 国内外の訴訟の動向
4. たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
5. 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
6. 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
7. 買収やビジネスの多角化に伴う影響
8. 国内外の経済状況
9. 為替変動及び原材料費の変動
10. 自然災害及び不測の事態等

2023年度 第3四半期実績

2023年度 第3四半期実績：為替一定ベース・財務報告ベース共に増収増益



(億円)	2023年 1-9月	前年同期比
為替一定ベース		
Core Revenue	20,492	+5.9%
調整後営業利益	6,755	+5.9%
財務報告ベース		
売上収益	21,570	+7.4%
調整後営業利益	6,644	+4.2%
営業利益	6,318	+9.1%
四半期利益	4,420	+9.5%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

売上収益・調整後営業利益

- たばこ事業におけるプライシング効果が、サプライチェーンにおけるコスト上昇影響、HTS*への投資加速化の影響を上回る
- 医薬事業・加工食品事業においても引き続き増益
- 調整後営業利益における為替影響はネガティブに発現

営業利益

- 調整後営業利益の増加に加え、調整項目における不動産売却益の増加、商標権償却費の減少により、増益

四半期利益

- 営業利益の増加により、増益

*HTS=Heated tobacco sticks

たばこ事業 数量実績：上半期の好調なモメンタムが継続



(億本)	2023年 1-9月	前年同期比
総販売数量	4,106	+2.1%
Combustibles 販売数量	4,042	+2.1%
RRP販売数量	65	+8.2%

Combustibles

継続的なシェア獲得による、堅調な販売数量増加

- EMAクラスターにおける販売数量増加
 - トルコにおける総需要増加
 - Global Travel Retailにおける渡航者数の回復基調継続
 - 新興国における好調なモメンタム
- 日本における、拡大するバリュー価格帯を中心としたカテゴリ内シェアの伸張をはじめとした、主要市場におけるシェア伸張
- Growth-limiting factors:
 - フィリピン、英国等における総需要減少
 - スーダンにおける事業一時停止

RRP

日本におけるHTSカテゴリ内シェアの伸張と新規ローンチによる、HTS販売数量の着実な成長

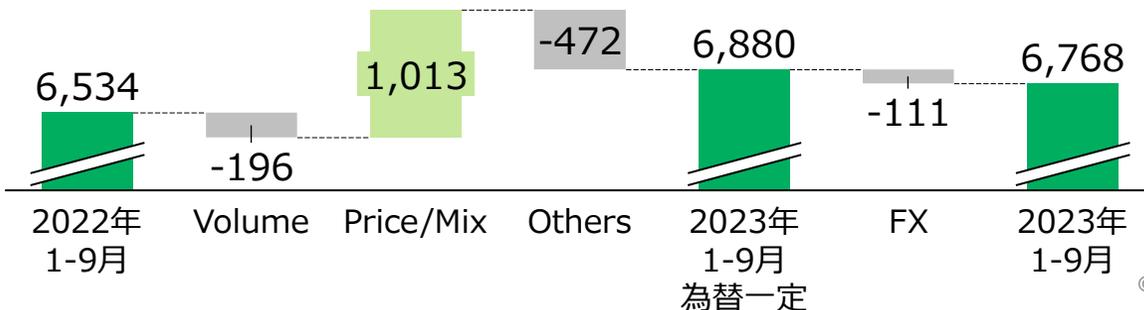
- 日本におけるHTSカテゴリ内シェアの伸張
- 欧州におけるPloom Xの新規ローンチ

たばこ事業 財務実績：引き続きプライシングをドライバーとした着実な利益成長を達成 JT

(億円)	2023年 1-9月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	18,913	+7.4%
(同 為替一定)	18,667	+6.0%
調整後営業利益	6,768	+3.6%
(同 為替一定)	6,880	+5.3%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。
 為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

調整後営業利益 増減要因 (億円)



Volume

- 総販売数量は増加したものの、市場構成比の悪化により数量差影響はネガティブ

Price/Mix

- フィリピン・ロシア・英国をはじめとした多数の市場でのプライシング効果が、日本・フィリピン等におけるダウントレーディング継続による商品構成比の悪化を相殺

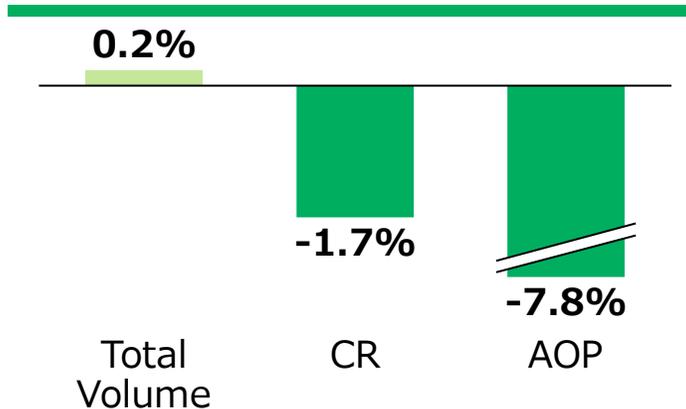
Others

- サプライチェーンコスト等の上昇
- Combustibles・RRP双方への投資強化

FX

- 一部現地通貨が円高方向に推移したことにより、為替影響は調整後営業利益に対しネガティブに発現

ASIA



調整後営業利益

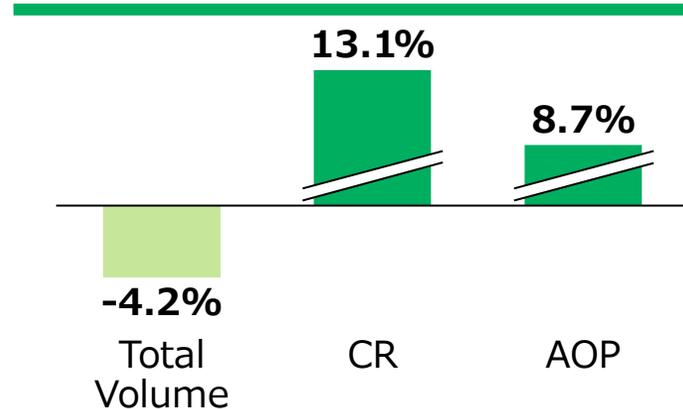
Growth drivers

- 主要市場（日本・フィリピン・台湾）における市場シェアの伸張
- フィリピンでのプライシング効果

Growth-limiting factors

- フィリピン・台湾における総需要の減少
- 日本及びフィリピンにおけるダウントレーディングに伴う商品構成比の悪化や、日本におけるPloom Xのシェア伸張を企図した投資
- 原材料の調達に円安が作用したことによるネガティブな為替影響

WESTERN EUROPE



調整後営業利益

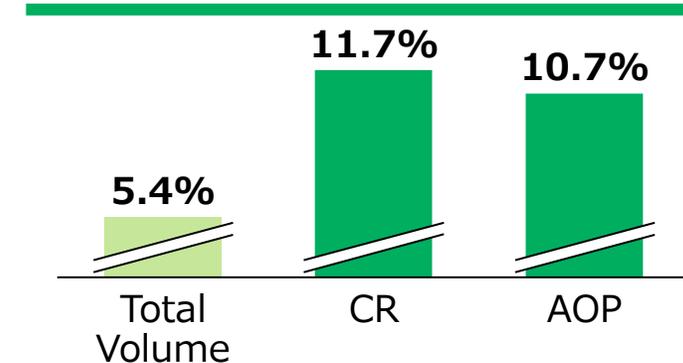
Growth drivers

- イタリアをはじめ、多数の市場における市場シェアの伸張
- ドイツ・フランス・スペイン・英国におけるプライシング効果
- ユーロや英ポンドを主因としたポジティブな為替影響

Growth-limiting factors

- 英国における総需要の減少
- Ploom X地理的拡大に伴う投資の増加

EMA



調整後営業利益

Growth drivers

- 多数の市場における市場シェアの伸張、Global Travel Retailの数量回復
- カナダ・ポーランド・ルーマニア・ロシア・トルコにおけるプライシング効果

Growth-limiting factors

- サプライチェーンコストの上昇影響
- ロシア・ルーブルを主因としたネガティブな為替影響

ASIA

日本

	Industry size	Total volume	SoM
	+0.7%	+2.3%	+0.6ppt

Industry dynamics

- RRP総需要の伸長がCombustibles総需要の減少を相殺し、トータル総需要は前年同期比同水準
- Combustiblesにおけるダウントレーディング及びHTSにおける厳しい競争環境の継続

YTD performance

- 市場シェアの伸張（42.9%、前年同期比+0.6ppt）により、総販売数量は総需要の推移を上回る
- Ploom Xへの投資が奏功し、RRPカテゴリシェアが増加（13.0%、前年同期比+1.0ppt）
- Combustiblesカテゴリにおいて、Camel Craft、MEVIUS-E seriesが牽引し、カテゴリ内シェアが増加

WESTERN EUROPE

英国

	Industry size	Total volume	SoM
	▲16.4%	▲19.2%	▲0.9ppt

Industry dynamics

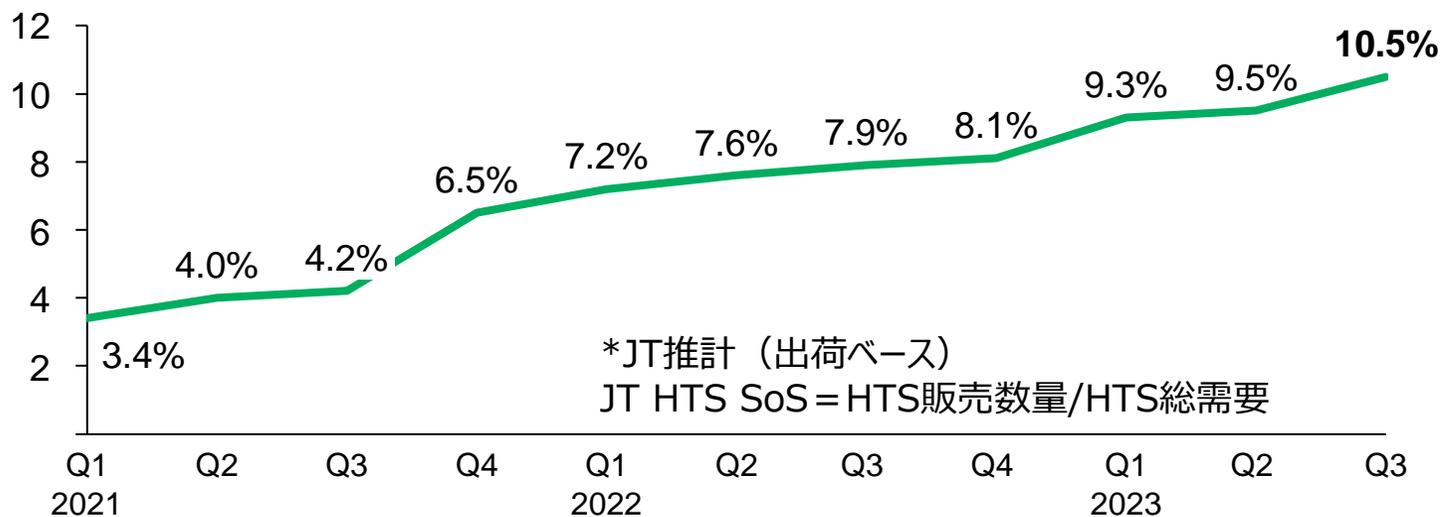
- 2021年下半期以降の複数回にわたる増税値上げ、渡航制限の緩和、大幅なインフレによる購買力の低下等により、総需要は減少
- ダウントレーディングの加速化による、バリュー価格帯・Fine Cutカテゴリにおける競争激化

YTD performance

- 堅調なプライシング効果がネガティブな数量差影響を上回る
- 市場シェアの減少はあるものの、マーケットリーダーの地位を堅持

- 競争が激化する環境下においても、Ploom XのHTSカテゴリ内シェアは引き続き伸張
- Ploom X ADVANCEDの発売により、更なるユーザー獲得・定着を目指す

日本市場：HTSカテゴリにおける四半期別JTシェア*の推移



本スライドは、JTグループの事業活動を説明するためのものであり、当社グループの製品について、消費者への販売促進もしくは使用を促す目的のものではありません。

2024年末時点で28市場での販売開始を見込む

- 2023年における海外展開は計画通りに進捗

Ploom X geo-expansion

	HTS 市場占有率*	発売スケジュール
ポーランド 	10.3%	9月中旬にワルシャワで販売開始
ハンガリー 	20.2%	9月中旬にブダペストで販売開始
ルーマニア 	8.9%	10月上旬よりブカレストで販売開始
ギリシャ 	19.6%	10月下旬よりアテネで販売開始
カザフスタン 	13.2%	11月上旬よりアルマトイで販売開始

Before 2023	Jan-Mar	Apr-Jun	Jul-Sep	Oct-Nov
 Japan	 Italy	 Czech R.	 Switzerland	 Romania
 UK	 Portugal		 Poland	 Greece
	 Lithuania		 Hungary	 Kazakhstan

*HTS市場占有率は、2023年（8月まで）の平均
ルーマニアのみ2023年（9月まで）の平均

医薬事業

(億円)	2023年 1-9月	増減
売上収益	698	+101
調整後営業利益	131	+59

加工食品事業

(億円)	2023年 1-9月	増減
売上収益	1,115	▲13
調整後営業利益	46	+28

売上収益

- 導出品のライセンス契約に係る一時金収入、及び鳥居薬品において皮膚疾患領域・アレルギー領域の売上が伸長したことにより、前年同期比で増収

調整後営業利益

- 売上収益の増収により、研究開発費の増加があったものの、前年同期比で増益

臨床開発品に関するアップデート：アレル炭化水素受容体モジュレーター「JTE-061（一般名：タピナロフ）」のクリーム剤について、アトピー性皮膚炎及び尋常性乾癬を適応症として、2023年9月15日に日本国内における製造販売承認申請を実施

売上収益

- 冷食・常温事業において、前年度及び当年度における価格改定に加え、外食需要の回復による業務用製品のトップライン伸長があるものの、ベーカリー事業譲渡に伴う売上収益の剥落により、前年同期と概ね同水準

調整後営業利益

- 冷食・常温事業における前年度及び当年度における価格改定効果や、業務用製品のトップライン伸長影響が、原材料費等の大幅な悪化を相殺し、前年同期比で増益

2023年度 修正見込

2023年度 全社修正見込



(億円)	2023年 修正見込	対前回見込 増減	前年度比
為替一定ベース			
Core Revenue	27,000	+630	+5.6%
調整後営業利益	7,640	+340	+5.0%
財務報告ベース			
売上収益	28,440	+850	+7.0%
調整後営業利益	7,210	+380	▲0.9%
営業利益	6,780	+450	+3.7%
当期利益	4,640	+70	+4.8%
FCF	5,030	+250	+1,201億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の通年の増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

売上収益・ 調整後営業利益

為替一定ベース・財務報告ベース共に前回見込より上 方修正

- たばこ事業における力強い第3四半期実績の反映を主因に、上方修正
- 為替影響は前回想定から大きく変わらず、調整後営業利益に対し400億円程度のネガティブ影響を見込む

営業利益・ 当期利益

いずれも上方修正

- 営業利益は、調整後営業利益の上方修正に加え、調整項目における不動産売却益の上振れを見込む
- 当期利益は、営業利益の上方修正を、金融損益の悪化・法人税負担の増加が一部相殺する見込み

FCF

対前回見込 +250億円

- 調整後営業利益の上方修正等を、運転資本の悪化が一部相殺する見込み

2023年度 たばこ事業：修正見込

数量前提

	2023年 修正見込	2023年 前回見込
総販売数量	前年度比 +1.5%程度	前年度比 ▲1.0%程度

財務見込

(億円)	2023年 修正見込	対前回 見込増減	前年度比
財務報告ベース			
自社たばこ製品 売上収益	24,900	+900	+7.5%
調整後営業利益	7,470	+370	▲0.9%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。
為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の通年の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

数量前提

「前年度比+1.5%程度」に上方修正

- トルコ等複数市場における底堅い総需要、各市場における堅調なシェアモメンタム及びGlobal Travel Retailの回復基調を反映

財務見込 (為替一定ベース)

自社たばこ製品売上収益：対前回見込 +630億円（前年度比 +5.9%）
調整後営業利益：対前回見込 +330億円（前年度比 +4.8%）

- 力強いプライシング効果の発現、総販売数量の上方修正を反映
- 調整後営業利益においては、トップラインの上方修正をPloom Xへの投資強化等が一部相殺

財務見込 (財務報告ベース)

自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益：
いずれも上方修正

- 多くの通貨の前提レートを円安方向に見直し

2023年度 医薬事業・加工食品事業：修正見込

医薬事業

(億円)	2023年 修正見込	対前回 見込増減	対前年 増減
売上収益	940	+20	+111
調整後営業利益	155	+20	+44

売上収益

対前回見込+20億円

- ・ 鳥居薬品における売上収益の増収に加え、円安による海外ロイヤリティ収入の上振れを見込むことから上方修正

調整後営業利益

対前回見込+20億円

- ・ 売上収益の上方修正に伴い、上方修正

加工食品事業

(億円)	2023年 修正見込	対前回 見込増減	対前年 増減
売上収益	1,530	▲20	▲25
調整後営業利益	60	+5	+25

売上収益

対前回見込▲20億円

- ・ 冷食・常温事業における一部家庭向け製品の販売動向を織り込む

調整後営業利益

対前回見込+5億円

- ・ 光熱費を中心としたコストの見通しを精緻化

Closing remarks

2023年度

- 1-9月期において、全ての事業で増益を達成。引き続きたばこ事業のプライシング効果が牽引し、力強い実績。
- 通期業績見込の達成に自信

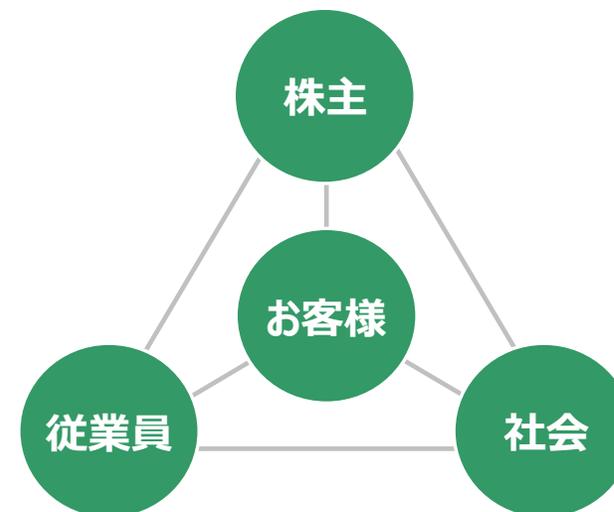
来期に向けて

- Ploom Xの地理的拡大（2024年末で28市場での販売開始）に引き続き注力
- 2023年度において、インフレに伴うサプライチェーンコストは大幅に上昇。現時点においては、来期の対前年上昇率は僅かながら緩やかになるものの、依然としてコスト増要因に作用する見立て。

株主還元

- 一株当たり年間配当金予想は当初の188円から変更なし

心の豊かさを、
もっと。



<用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定ベース：	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue：	前年同期の現地通貨対米ドル、米ドル対円の為替レートを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品。当社製品ポートフォリオにおけるheated tobacco sticks (HTS), infused-tobacco capsules (Infused), E-Vapor, 無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco sticks (HTS)：	高温加熱型の加熱式たばこ。1スティック = RMC1本として換算
Combustibles：	製造受託／水たばこ／加熱式たばこ／無煙たばこ／E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品
GFB： (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド

<用語の定義>

総販売数量： 水たばこ／製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリを除くたばこ製品の販売数量

Combustibles販売数量： 水たばこ／E-Vapor／無煙たばこ（Snus・ニコチンパウチ）／加熱式たばこ／製造受託を除くたばこ製品の販売数量

RRP販売数量： Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数（RMCとして換算）。デバイス/関連アクセサリ等は含まない

自社たばこ製品売上収益： 物流事業／製造受託等を除く売上収益